

脂肪肝指数は 10 年間の虚血性心疾患の予測因子

脂肪肝指数は BMI、腹囲、 γ -GTP、中性脂肪より算出されるもので、非アルコール性脂肪性肝疾患の代替指標である。本研究では、脂肪肝指数と 10 年間の虚血性心疾患発症リスクとの関連について後ろ向きコホート研究を実施し検討した。

対象は日本人の定期健康診断を受けた 28,990 例のうち、データ欠損者および虚血性心疾患の罹患者を除いた 18,851 例（男性 11,659 例/女性 7,192 例）で、試験開始時の脂肪肝指数は男性が女性よりも有意に高かった。10 年間で、虚血性心疾患の新規発症は自己申告により男性 450 例（3.9%）、女性 123 例（1.7%）であった。従来から危険因子とされている年齢、性別、喫煙習慣、虚血性心疾患の家族歴、糖尿病・高血圧・脂質異常症・慢性腎臓病の診断について調整した後の解析の結果、試験開始時の脂肪肝指数が高いほど虚血性心疾患の発症リスクが上昇することが示された。脂肪肝指数の三分位群別で解析したところ、第 1 三分位群に対する第 3 三分位群の虚血性心疾患発症リスクは有意に高かった（ハザード比 1.34、 $P=0.017$ ）。さらに、従来の危険因子に脂肪肝指数を加えると、虚血性心疾患発症の予測能力が有意に改善した。

今回の結果から、脂肪肝指数の高値は、虚血性心疾患の新規発症の独立した予測因子であることが示唆された。

出典：Hepatology Research. 2022; 52: 687-698.